

鹿児島県立埋蔵文化財センター

Kagoshima Prefectural Archaeological Center

まいぶん



埋文だより

第93号

令和6年9月30日発行

七十二年ぶりに故郷へ 黒川洞穴里帰り展

8月25日(日)に、日置市吹上町歴史民俗資料館で「黒川洞穴里帰り展」を開催し、講演会を行い、当時の調査の様子や吹上周辺の歴史的特性などを紹介しました。当日は150名の方に参加していただきました。

黒川洞穴は、1952年に故河口貞徳氏らが調査を行い、出土品は現在県立埋蔵文化財センターに保管しています。

今回、黒川洞穴の貴重な遺物や近辺で調査された遺跡及び出土遺物を地元の方々に展示紹介しました。

目次

- ・黒川洞穴里帰り展…………… 1
- ・発見！発掘速報…………… 2～4
- ・わくわく考古楽授業支援(出前授業)…………… 5
- ・現地説明会を実施(名主原遺跡)…………… 5
- ・暑さに負けずパワーアップ！各種研修を実施… 6
- ・令和6年度発掘調査予定遺跡…………… 7
- ・自宅で遺跡を見学しよう…………… 8

発見！ 発掘速報



戦国時代の山城の謎を追って・・・

— ^{しもじょうあと}下城跡（始良市北山）—



下城跡は、始良市北山に所在します。
標高約 270mのシラス台地上に作られており、戦国時代（15 世紀末から 16 世紀末頃）に整備されたとする山城に関する遺構がかなり良い状態で残されています。

東西にシラス台地を掘削して主要な5つの曲輪^{くるわ}を築き、それを取り囲むように巨大な空堀^{からぼり}があります。さらに土塁^{どるい}を作って防御を固め、所々に虎口^{こぐち}や帯曲輪^{おびぐるわ}などを築いて敵の侵入に備えていたことが伺えます。

調査面積が狭く傾斜地も多いため、調査は難しいですが、曲輪等にあったと思われる構築物等の手がかりを探しながら現在調査を進めています。調査地のすぐ近くには始良市立北山小学校があり、6月に5・6年生の児童たちが地層見学や発掘体験に来てくれました。

曲輪・・・削平や盛土によって造られた平坦面

空堀・・・容易に越えることができない幅と深さのある、水の張られていない堀

土塁・・・曲輪の周縁部や出入口の周囲に設けた、防御のための土手

虎口・・・城館の出入口

帯曲輪・・・主要な曲輪の外周に配置される細長い小曲輪



下城跡空撮（中央が下城跡，奥に桜島）



発掘調査の状況



北山小学校5・6年生 発掘体験



獲物を追い求め、野営した縄文時代の遺跡

— ^{ふたごづか}二子塚B遺跡（大崎町持留）—



二子塚B遺跡は曾於郡大崎町にある遺跡で、黒石串良線地方特定道路整備に伴い、令和4年度から令和6年度まで発掘調査を行いました。

令和6年度は、令和5年度に調査した調査区内の、より下層の古い時代の調査を行いました。

その結果、縄文時代後・晩期^{どこう}の土坑が1基、縄文時代早期の土坑^{しゅうせき}が1基、集石^{まいせつ}が3基、埋設土器が1基、時期不明（縄文時代後・晩期～古墳時代？）のピット（柱穴^{ちゅうけつ}）が3基検出されました。縄文時代早期の土器・石器等である手向山式土器^{たむけやま}や塞ノ神式土器^{せのかん}、打製石鏃^{だせいせきぞく}や磨石^{すりいし}・敲石^{たたきいし}などが出土しました。埋設土器はただ埋めたのではなく、そこで何らかの祭祀を行ったのかもしれませんが。集石は、食料を蒸すなど調理した施設ではないかと考える説もあります。石鏃や落とし穴からは猟をした姿が見えてきます。今回の発掘調査から、二子塚B遺跡では、そんな縄文時代の人々の生活が営まれた姿が浮かび上がってきました。



縄文時代早期の落とし穴



縄文時代早期の埋設土器

縄文時代早期より昔の時代の、より深い地層も調査しましたが、現在、二子塚B遺跡は平坦地ですが、古い時代は今とは大きく異なり、大きく傾斜した谷のある地形であったことが分かりました。



二子塚B遺跡空撮



縄文時代早期の集石



弥生時代から古墳時代にかけての大集落跡

—^{みょうずばる}名主原遺跡（鹿屋市吾平町）—

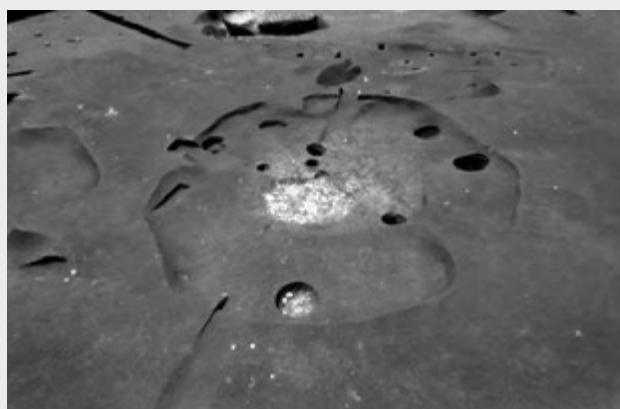


鹿屋市吾平町の名主原遺跡では、昨年
に引き続き発掘調査が行われています。
今年度の調査では、弥生時代の後半から古墳時代の
前半にかけての^{たてあななてものあと}堅穴建物跡が 40 基以上見つかり
ます。建物の中からは、水色や青色のガラス小玉が
27 個出土したほか、稲の穂を刈ったと考えられる石^{せき}
製穂摘具（石包丁）や、鉄を研いだと考えられる砥^{いし}
石がたくさん出土しています。さらには土器に絵の
ようなものを描いた線刻土器と呼ばれる土器も出土
しています。また、県外から持ち込まれたと考えら
れる須恵器^{すえき}と呼ばれる焼き物も出土しています。

名主原遺跡では、過去の調査結果も合わせると、
合計で 100 基以上の堅穴建物跡が見つかり
ます。建物の形は円形の周りに張り出しを持つ花卉形^{かべんがた}と方
形が見られます。ほとんどの建物が住居の役割を持っ
ていたと考えられますが、中には作業場として使わ
れていたと考えられる、建物の中に 4 つのきれいに並んだ土坑を持つ建物も見つかり
ています。名主原遺跡は、始良川と大始良川に挟まれた標高が一番高い場所に作られた集落です。その標
高が一番高い場所に、この様な建物が何基も重なるように建てられており、何世代にも渡って
同じ様な場所に家を建て直して暮らしていたと考えられます。今回調査した範囲の外側にも集
落が広がっていることから、名主原遺跡はこの時代の県内最大級の集落跡と言えるでしょう。



直径 9 m を超える大きさの花卉形建物跡



花卉形住居跡



潰れて出土した完形の土器



宮崎平野の土器と考えられる弥生土器

ワクワク考古楽授業支援（出前授業） ～本物に触れ、体感する～

当センターでは、県内の学校にセンター職員が出向いて、発掘
された本物の土器や石器などの資料を活用し、授業を行う「ワク
ワク考古楽」授業支援（出前授業）を行っています。今年度は 8
月現在で小、中学校 11 校、1 団体に実施しました。

7 月 5 日に実施した鹿屋市立細山田中学校では、^{うえのはら}上野原遺跡や
学校の身近にある遺跡として立小野堀遺跡、^{たちおのぼり}川久保遺跡等を紹介
しました。生徒たちは、縄文土器や弥生土器、石器や黒曜石^{こくようせき}など
実際に手に取って観察し、土器の文様や石鏃の細かさに興味を示
していました。

7 月 10 日に実施した日置市立伊作小学校では、授業前半は黒
川洞穴^{くろかわどうけつ}の調査や整理作業で分かったことを紹介し、後半は小学校
の吹上歴史民俗資料館に移動して、黒川洞穴から出土した土器や
石器、貝製品^{こっかくき}、骨角器などの展示品を見学しました。

本県は離島が多いことや、上野原縄文の森や県立埋蔵文化財センターから遠距離である等の理
由から、直接見学する機会がない子どもたちも少なくないと思います。そのような子どもたちに、
本物の土器や石器に触れ、郷土の歴史や文化に興味・関心を持ってもらうことが、「ワクワク考
古楽」の大きな目的です。今年度も実施していますので、ぜひ利用していただければと思います。
「ワクワク考古楽」の詳細については、当センターホームページ（<https://www.jomon-no-mori.jp/category/zcenter/wakuwakushien/>）をご覧ください。



鹿屋市立細山田中学校での授業



日置市立伊作小学校での授業

現地公開を実施

—（鹿屋市吾平町 名主原遺跡）—



8 月 27 日に、名主原遺跡の現地公開を行いました。

現地公開では調査成果を説明するとともに、これまでに発見さ
れた遺構・遺物についても紹介しました。今回の説明会には近隣
の方など約 60 名が参加され、担当者の説明を聞きながら地域の歴
史を再確認されていました。

埋蔵文化財センターでは、県民の皆様に埋蔵文化財のことをよ
り広く知ってもらえるよう、各種事業を展開しています。特に発
掘調査現場においては、先人たちの知恵・功績について紹介し、
埋蔵文化財に関する理解を深めていただくことを目的とした遺跡
公開も開催しています。



調査成果の説明



出土した遺物の解説

暑さに負けずパワーアップ! 各種研修を実施しました

当センターでは、学校の先生方や市町村の埋蔵文化財担当職員を対象とした研修講座を毎年開催しています。今年度も、7月から8月にかけて、主に以下の内容で講座を開催し、多くの参加をいただきました。

フレッシュ研修・先生のための考古学講座

「フレッシュ研修」は初任者、「先生のための考古学講座」はすべての教職員を対象とした研修講座で、8月8日～9日、8月19日～20日に実施しました。所内見学や土器洗い、土器接合、拓本といった整理作業の業務体験やまいぶんキットを活用した授業の進め方などの研修や、縄文体験、屋外施設のフィールドワークなどを行いました。



まいぶんキットを活用した授業

パワーアップ研修

8月19日、20日、22日に「パワーアップ研修」を行いました。
埋蔵文化財センターと上野原縄文の森の、それぞれの役割と業務
や遺跡にみる鹿児島県の歴史や文化についての講義、埋文センター
業務の体験、火起こし、アクセサリー作りなどの古代生活体験を
行いました。



整理作業の見学

埋蔵文化財技術研修講座

市町村の埋蔵文化財担当職員を対象とした「埋蔵文化財技術研修講座」を開催しました。

基礎講座を7月19日に志布志市で実施し、現在(公財)埋蔵文化財調査センターが発掘調査を行っている野首遺跡で、調査方法や測定の研修を行いました。

また、技術講座を8月22日～23日に当センターで実施し、土器の実測やパソコンを使ったデジタルトレースの方法などの研修を行いました。



志布志市野首遺跡での研修



土器実測の研修

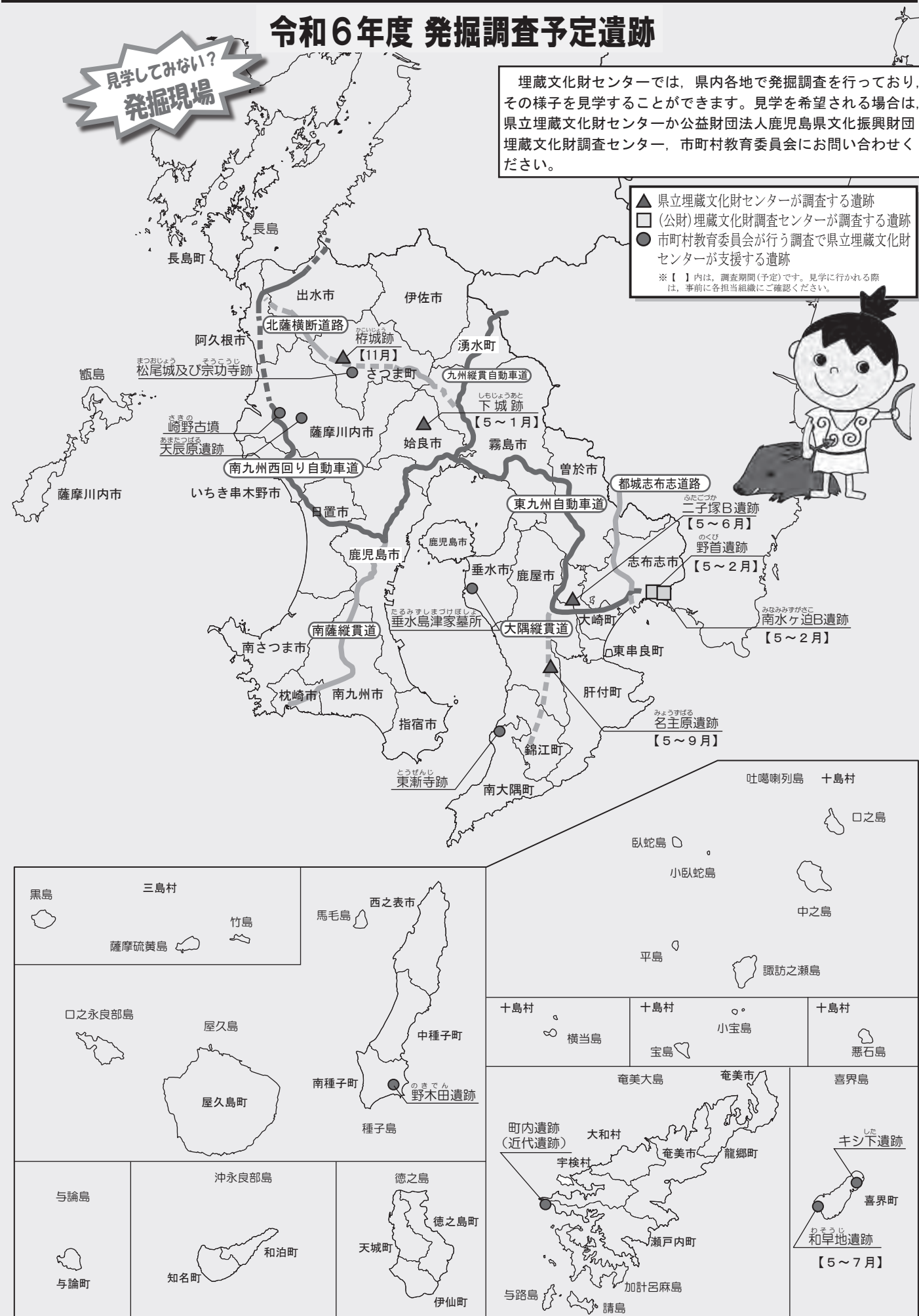
令和6年度 発掘調査予定遺跡

見学してみない！
発掘現場

埋蔵文化財センターでは、県内各地で発掘調査を行っており、その様子を見学することができます。見学を希望される場合は、県立埋蔵文化財センターか公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター、市町村教育委員会にお問い合わせください。

▲ 県立埋蔵文化財センターが調査する遺跡
□ (公財)埋蔵文化財調査センターが調査する遺跡
● 市町村教育委員会が行う調査で県立埋蔵文化財センターが支援する遺跡

※【 】内は、調査期間(予定)です。見学に行かれる際は、事前に各担当組織にご確認ください。



自宅で遺跡を見学しよう（3D・AR体験）

現在当センターでは、遺跡そのものや、そこで見つかった遺構・遺物を3DデータにしてWeb上で公開しています。3Dデータにすることで、遺構・遺物を立体的に見ることができ、発掘している遺跡の様子をリアルに感じることができます。

また、AR (Augmented Reality, ^{かくちょうげんじつ}拡張現実) 技術により、遺跡で発見された遺構や遺物を、スマートフォンやタブレットの画面内に現実の景色と重ねて表示し、実際に中を見学をしているような体験をすることができます。

以下のQRコードをスマートフォンやタブレット等で読み取り、遺構や遺物を目の前でご覧ください。当センターホームページでは、今回紹介したデータ以外も公開していますので、ぜひアクセスしてお楽しみください。

※ スマートフォンやタブレットのOSのバージョン、機種等によってはご覧いただけないことがあります。

※ ARをご覧いただくためには、「STYLY」という無料アプリが必要です。QRコードを読み込むと、インストール画面に移行しますので、案内に従い操作をしてください。



名主原遺跡 円形周溝墓



3D体験



AR体験



山ノ口遺跡 岩偶



3D体験



AR体験

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

当センターのホームページ及びフェイスブックは右側のQRコードからお入りください。

Instagramは、(https://www.instagram.com/kago-shima_maibun)からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索



ホームページ



フェイスブック

埋文だより 第93号

発行日 令和6年9月30日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <https://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp